オーディオ実験室収載

EMT981 再生系の再構成(23)
－ハイドンを聴く(14)－

１．はじめに

前報(3)において EMT981 から Truphase を経て 300B アンプまでのバランス伝送が実現した機会に、手持ちの CD を聴き直していくことにしました。今回も、しばらく聴いていないハイドンの作品を聴いていきます。

２．EMT981 の試聴方法

EMT981 の再生では、前報(7)と同様に前報(2)の再生ルートとします。

EMT981(＊)→TruPhase→.300B

＊：GPS-777 より CCD-6 経由でクロック入力

古い録音で定位などに違和感が感じられるときは TruPhase で位相を反転します。

再生する CD はハイドンの交響曲です。

EMI　TOCE-13143

ハイドン　交響曲第 99 番

交響曲第 101 番＜時計＞

ジェフリー・テイト指揮イギリス室内管弦楽団

PILZ　4492-2

ハイドン　交響曲第 99 番

交響曲第 101 番＜時計＞

交響曲第 94 番＜驚愕＞

アルフレッド・ショルツ指揮フィルハーモニアスラヴォニカ

アルフレッド・ショルツ指揮南ドイツフィルハーモニー

３．EMT981 の試聴結果

テイト指揮イギリス室内管弦楽団盤は、1988 年の録音で、前報(22)の EMI TOCE-13141 と同様、歯切れよく爽やかな演奏です。

交響曲第 99 番と交響曲第 94 番＜驚愕＞はショルツ指揮フィルハーモニアスラヴォニカ盤で、交響曲第 101 番＜時計＞はショルツ指揮南ドイツフィルハーモニー盤です。これらは廉価盤であり、録音年代は不明で、ナロウレンジで音質はさほどよくありません。しかしながら、交響曲第 101 番＜時計＞などは、ナロウレンジながら、ゆったりと落ち着いた演奏が聴けます。

４．まとめ

クロック入力した EMT981 からのバランス接続の効果で、EMI 盤は、すっきりと爽やかな音が、PILZ 盤はナロウレンジながら落ち着いた音での演奏が楽しめます。

以上